

古代東アジアの重層建築に関する学術会議

科学研究費補助金 基盤研究 B

「古代東アジアにおける建築技術体系・技術伝播の解明と日本建築の特質」

第2回 国際学術会議

塔婆をはじめ、古代東アジアにおいて重層建築に対する志向は共通するものがあつた。現存する石塔・木塔はもちろん、浄土変相図をはじめとする絵画にも楼閣や塔が描かれることは少なくない。この重層建築の建築技術は、東アジアにおける技術伝播や受容の有無を検討する有効な対象である。

韓国には古代の重層建築が現存しないが、日本には奈良時代以前の重層建築が塔を中心に現存し、中国には開元寺鐘楼や独楽寺観音閣などが現存する。両者の建築には共通点もあるいっぽうで独自の技術も多い。本国際学術会議では、重層建築を構築する技術に関して、日中相互の建築を対象に、両者の共通点や設計方法、技術について比較検討し、古代東アジアの建築技術の一端に迫りたい。

日時：2019年10月20日（土）13：00～

場所：独楽寺

プログラム PROGRAM

13：00～13：10 開催挨拶・趣旨説明 Opening Ceremony and Explanation of Purpose

13：10～14：10

古代日本における重層建築の構造

Study on structural system of multistoried building in ancient Japan

海野 聡（東京大学大学院）

UNNO, Satoshi (The University of TOKYO)

14：10～15：10

中国古代重層木造建築の構造と設計ー12世紀以前を中心に

Structure and Design of Chinese Ancient Multistoried Wooden Architecture before the 12th Century

丁焄（天津大学）

DING Yao (The University of Tianjin)

休憩 Tea Break

15：30～17：00 討議 Discussion

閉会挨拶 Closing Ceremony

通訳：温静（同済大学）